

代数序論A (第14回・2012/07/19) 小テスト

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

[1] (同値関係) 集合 X の2つの元の間定義された関係 \sim が、次の3つの条件を満たすとき、この関係 \sim を同値関係という。

(1) 反射律 $x \sim x (\forall x \in X)$,

(2) 対称律 $x \sim y$ ならば $y \sim x (\forall x, y \in X)$,

(3) 推移律 $(\forall x, y, z \in X)$,

定理 . 集合 X に同値関係 \sim を定めると、同値類 $C(a) = [a]$ によって X の類別が得られる .

[2] $\mathbb{Z}/m\mathbb{Z} = \{[0], [1], \dots, [m-1]\}$ を考える . 但し, $[a] = a + m\mathbb{Z} = \{a + mn \mid n \in \mathbb{Z}\} = \bar{a}$ である . ここで, 集合 $\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$ に2つの演算, 加法 $+$ と乗法 \cdot を以下の様に定義する .

$$[a] + [b] := [a + b], \quad [a] \cdot [b] := \boxed{}$$

この同値類に対して定義された演算 $(+, \cdot)$ が, 代表元の取り方に依らずに定まっていること, すなわち $[a] = [a']$ かつ $[b] = [b']$ ならば $[a + b] = [a' + b']$ 及び $[ab] = [a'b']$ が成り立つことを,

w から始まる英単語1つを用いて, 演算は $$ であるという .

[3] $(\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}, \cdot)$ に対して, $\bar{a} = [a]$ として, 演算表を書いてみる :

	$m = 2$			$m = 3$			$m = 4$				$m = 5$					$m = 6$						
\cdot	$\bar{0}$	$\bar{1}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{1}$	$\bar{2}$	$\bar{0}$	$\bar{1}$	$\bar{2}$	$\bar{3}$	$\bar{0}$	$\bar{1}$	$\bar{2}$	$\bar{3}$	$\bar{4}$	$\bar{0}$	$\bar{1}$	$\bar{2}$	$\bar{3}$	$\bar{4}$	$\bar{5}$	
$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	$\bar{0}$	
$\bar{1}$	$\bar{0}$	$\bar{1}$	$\bar{1}$	$\bar{0}$	$\bar{1}$	$\bar{2}$	$\bar{1}$	$\bar{0}$	$\bar{1}$	$\bar{2}$	$\bar{3}$	$\bar{1}$	$\bar{0}$	$\bar{1}$	$\bar{2}$	$\bar{1}$	$\bar{0}$	$\bar{1}$	$\bar{2}$	$\bar{3}$	$\bar{4}$	$\bar{5}$

よって, $m = 2, 3, 4, 5, 6$ のうち, $\mathbb{Z}/m\mathbb{Z}$ が体となる m は である .

[4] $(\mathbb{Z}/m\mathbb{Z})^\times := \{[a] \in \mathbb{Z}/m\mathbb{Z} \mid \gcd(a, m) = 1\}$ に対して, $((\mathbb{Z}/m\mathbb{Z})^\times, \cdot)$ は位数 $\varphi(m)$ の可換群をなす . 群 $((\mathbb{Z}/m\mathbb{Z})^\times, \cdot)$ を $\phantom{(\mathbb{Z}/m\mathbb{Z})^\times}$ 群, $\varphi(m)$ をオイラー関数と呼ぶ .

$\varphi(2) = 1, \varphi(3) = 2, \varphi(4) = 2, \varphi(5) = 4, \varphi(6) = 2, \varphi(7) = 6, \varphi(8) = \boxed{}, \varphi(9) = 6.$

[5] (オイラーの定理) 整数 $m \geq 2$ と $\gcd(a, m) = 1$ なる整数 $a \in \mathbb{Z}$ に対して, 以下が成り立つ :

$$a^{\varphi(m)} \equiv 1 \pmod{m}.$$

素数 p に対して, $m = p$ の場合, $\varphi(m) = \boxed{}$ であるから, オイラー (1707-1783) の

定理は, 数学者 (1601-1665) の名前が付いた $$ の小定理の拡張になっている .

(1) 7^{19} を 19 で割った余りは $\phantom{7^{19}}$, (2) 7^{19} を 8 で割った余りは $\phantom{7^{19}}$.